



「地方ありき」の改革を

鳥取ガス株式会社

取締役社長

児嶋祥悟

鍋の水に蛙を入れて、急激に熱すると蛙は驚き鍋から飛び出すが、弱火でゆつくり温めると逃げ出さずに死ぬという。現代の日本は忍び寄る危機への対応が遅れ、手の施しようがない蛙の状態と酷似している。

わが国は決断力のある指導者を失って久しく、政治は混迷が続き、経済はデフレに陥り、官僚の汚職と脱税で二四〇兆円もの膨大な赤字となり、墮落・腐敗の無責任大国は瀕死の重傷である。

幕末は黒船による外圧、財政破綻と庶民の武士支配からの脱却で明治維新となった。新政府は東京遷都で人心を一新し、進取の精神と強い指導力で廃藩置県を断行し、幕藩体制の古い衣を脱ぎ捨て、明治憲法や市町村制の新制度を導入した。

明治維新から一三〇年。二十一世紀の日本にふさわしい国づくりは、地方分権と小さな連邦政府による新しいシステムであるだろうか。あしたを担う若いリーダーたちによって「地方分権ありき」を主軸においた改革的な新システムが、果敢に実行されることを望みたい。